

浅海増殖試験 キジハタ生態調査

曾田一志

キジハタの種苗生産技術および放流技術開発の基礎資料とするために、生活史の解明および資源変動等の調査を行っている。今年度は籠を用いた幼魚の採捕試験を行い、幼魚期の分布生態の解明を試みた。

材料と方法

試験に使用した籠は、全長100cm、幅75cm、高さ45cmのかまぼこ型のものを自作し、用意した。誘導口は両端に直径20cmの円形のを設けた。籠に餌は入れず、樹木の枝葉を束ねたものを入れた。

試験は島根半島の多古鼻周辺で行い、特に、漁業者からの聞き取りで幼魚の目撃情報の多かったササグリ周辺を中心に行った。水深は30m前後の地点とした。期間は5月20日から6月16日にかけて計7回行った。投入から籠揚げまでの時間は3日から5日とした。採捕された漁獲物はただちに持ち帰り、種の査定と全長を測定した。

結果と考察

採捕された漁獲物を表1に示した。魚類ではベラ類（ササノハベラ、イトベラ、オハグロベラ）が最も多く、ハオコゼ、カサゴなどが観察されたが、キジハタは採捕されなかった。魚類以外ではマダコ、セミエビ類、ヤドカリ類などが観察された。

石田¹⁾は、本種の島根県沿岸での産卵期は7月前後の夏季と推測していることから、この時期には、沿岸域に接近すると考えられる。しかし、調査期間中は例年になく水温の上昇が遅れ、漁業者によるキジハタの水揚げも不調であった。このためキジハタが採捕できなかったのか、漁具の欠陥によるものなのか、低水温による年変動なのかは不明であった。

今後は調査手法を再検討する必要と考えられる。

表1 採集された漁獲物の種と全長

魚種名	全長範囲(cm)	個体数
ヌタウナギ	34.3-57.5	3
オハグロベラ	8.4-14.7	3
ササノハベラ	10.9-20.2	12
ホンベラ	10.3	1
イトベラ	11.8-13.4	13
ネンブツダイ	8.7- 9.3	3
スズメダイ	7.7-13.8	3
カサゴ	10.4-20.7	5
ハオコゼ	4.2- 9.2	13
ウマズラハギ	21.6	1

参 考 文 献

- 1) 石田健次：平成8年度島根県水産試験場事業報告書、156-157 (1998)